

令和3年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		4月		2～3月	
推進主体		成果となる目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		(指標となる数値等)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
				評価	
学 力 の 状 況	これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む)	○「読むこと」の領域では正答率が全国のポイントよりも高く、「読むこと」に対する定着がみられる。また、「話すこと・聞くこと」の能力も、少しずつはあるが伸びている傾向がみられる。 ○「書くこと」の領域においては苦手意識を抱いており、考えをまとめて自分の意見を具体的に書くというところに課題がみられる。 ○「数と式」や「図形」の分野においては、基礎基本の習得が概ねできている。 ◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。	○わかるよろこびを実感できる学習指導の工夫と授業改善 ○学校評価アンケートで、「授業が分かりやすい」という肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。 ○テーマを設定した互見授業を実施する。 ○iPadを活用した授業研究を年間2回以上実施する。	○「生徒が主体的に取り組む学習指導～主体的、対話的な深い学びの研究～」を研究テーマとして、学習指導の工夫、授業改善に取り組む。 ○「ひよこがらぼりタイム」「新学習システム」の推進とともに、学習相談を丁寧に実施し、少人数のきめ細かな指導の充実を図る。 ○生徒会の図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、積極的な図書館の活用を進める。 ○1、2年は朝の10分間読書を継続して行い、読書習慣の定着を図る。	
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ◆基礎基本の内容については概ね理解しているが、応用力を必要としたり自分で論理的に考えて説明したりすることに課題がみられる。 ◆効率的な家庭学習を行うために、学習計画を立てて実行させるとともに、補習を学校全体の取り組みとして充実させることで、生徒への支援を行う必要がある。	○主体的に学ぶ意欲を育てる学習相談の充実 ○学校評価アンケートで、「授業が分かりやすい」という肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。 ○全国学力・学習状況調査において、「読書が好き」と回答する生徒の割合が、65%以上 ○一日20分以上読書するという生徒の割合が、60%以上。	○全国学力・学習状況調査や日々の学習状況・生活状況に基づいて、基礎・基本の知識や技能の習得に努める。 ○「ひよこがらぼりタイム」「新学習システム」の推進とともに、学習相談を丁寧に実施し、少人数のきめ細かな指導の充実を図る。 ○生徒会の図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、積極的な図書館の活用を進める。 ○1、2年は朝の10分間読書を継続して行い、読書習慣の定着を図る。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習態度で、真面目に取り組んでいる。ほとんどの生徒は課題に真剣に取り組む、提出物への意識も高い。 ◆家庭での学習習慣に一定程度の定着がみられてきたが、集中した取り組みに課題が残る。日ごころから予習、復習に意欲的に取り組めるように、また、生徒自身が学習方法を工夫、改善を行う必要がある。	○学校・家庭・地域の連携と協働の推進 ○地域ボランティアとの交流や生徒の地域貢献活動を活発に行う。 ○学校評価アンケートで、「開かれた学校づくり」と「特色ある学校づくり」に関する肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに80%以上。	○家庭や地域との連携を強化し、地域のまつりや防災訓練、奉仕活動等への中学生ボランティアの参加をより活発に行う。 ○生徒や教職員が地域ボランティアと交流し、意見を交換できる機会を設定する。	
習 学 慣 力 ・ 向 上 活 性 に 関 連 する 学 生 の 習 慣	○学校の規則をよく守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけているという生徒が大多数を占めており、概ね良好である。 ◆家庭学習の時間確保とともに、計画を立てて取り組むことを習慣づける必要がある。 ○授業が分かりやすいという肯定的評価をする生徒の割合は90%以上である。 ◆夢や目標を持っている生徒の割合はやや低い、人の役に立ちたいと考える生徒の割合はとても高い。	○自尊感情・自己肯定感を育成し、自他ともに大切にすることを育てる人権教育の推進 ○全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあると思う」「人が困っているときは、進んで助けている」と回答する生徒の割合が、80%以上。 ○PTAとともに人権講演会を実施する。	○小学校での学びを教職員で共有し、校内道徳・人権委員会を中心に、系統だった道徳の授業を行う。 ○各種調査およびアンケート、教育相談等で生徒の実態把握を行い、学習や生活に関わる不安や悩みを解消に努め、個々の生徒理解を図る。 ○授業のみならずすべての教育活動を通して、成功体験を実感できる機会を増やす。		
校 内 の 研 究 ・ 研 修	校内研究の状況	○自分らしい生き方を実現する力を育てるキャリア教育の推進 ○トライやる・ウィークでの活動とおして将来について考え、学ぶこと・働くことの意義を理解する。 ○キャリアノートを積極的に活用して進路学習との連携を進める。	○トライやる・ウィークや「わくわくオーケストラ教室」の取り組みを充実させ、本物に出会う体験をもっと豊かな感性や自ら考えて行動する力を育てる。 ○キャリアノートを活用し、自己の将来を描くキャリアプランニング能力の育成を図る。		
	校内研修の状況	○互見授業や授業研究を積極的に行うことで、教師が互いに学びあう体制築き、校内全体で授業改善に取り組んだ。 ◆iPadを活用したICT教育の研修が後進にならないように、計画的に推進していくことが課題である。			
家 庭 ・ 携 校 種 間 連	家庭・地域等の状況	◆家庭・地域と連携して、放課後や夏休みを利用した学力補充を推進していく必要がある。	○育ちと学びの連続性を重視した学校園連携教育の推進 ○学力向上・生活習慣改善についての小中連携の会議を年間5回以上実施する。 ○学校評価アンケートで、「学校生活は充実している」という肯定的評価の割合が昨年度を上回る。	○授業参観を含めた学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。 ○学習規律の小中で統一した指導を協議し、共通理解を図る。 ○個々の児童生徒の課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。	
	小・中における教科連携等の状況	○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの連続性を大切にしたり取り組みを進めている。 ○子どもの「学びのすがた」や「育ちのすがた」を共通理解して、積極的な交流が行えている。			